

【緑地を楽しむ本】

『木と日本人 シリーズ全 3 巻』

監修・文 ゆのき ようこ、樹木画 長谷川哲雄

理論社



このシリーズの内容は、第 1 巻が材木—丸太と板、第 2 巻が樹皮と枝・つる、第 3 巻が葉や花、実と種 となっています。どの巻も木と共に暮らしてきた日本人の知恵で満たされていて、とりになってしまいます。こんなにも私たちは木やその周辺の産物を使い、恩恵を受けていたのかと、うならせられます。

第 1 巻では家や橋、色々な道具やおもちゃまで。第 2 巻では和紙、屋根や壁、衣、竹や笹の利用など。第 3 巻ではお茶、山菜、木の実の利用(柿渋もあります)、根や樹液の利用、草木染等々。灰も様々な利用法があります。

私が木のおもちゃを見ると買いたくなるのも、昔からの遺伝子がそそのかすのかもしれない。

どの巻もお勧めです。これらの本を読んで西緑地を見回すと、改めてここが宝の山だと分かります。

(齋藤好子)